



“新しい景色” ～挑戦の2学期～



大空に向かって咲く「絆プロジェクト」のひまわり▶

夏休みが終わり、新学期が始まりました。

44日間の夏休み中には、総合体育大会（総体）やコンクール等の県・四国・全国大会が開催され、部活動や地域クラブでの豊中生の活躍が目立ちました。香川県の代表として、吹奏楽部、柔道部、陸上部、卓球部、水泳部が四国大会出場を果たし、さらに全国大会にも、柔道部をはじめ校外部の水泳、少林寺、男子バレー、カヌーが駒を進め、全国レベルの選手と肩を並べました。これは、例年を上回る大快挙です。

校内に目を向けると、韓国の陝川郡の中学生との国際交流（8.5）や、人権について語り合う中学生交流集会（8.17）での市内外の中高生との意見交流や、「はるかひまわり絆プロジェクト」の活動などで、生徒会マナーアップリーダーズが中心になって確かな存在感を示してくれました。

* * *

こうした豊中生の活躍を見て“新しい景色”という言葉が頭に浮かびました。この言葉は、FIFAワールドカップ2022において、サッカー日本代表が史上初の「ベスト8進出」を目指す言葉として用いられたものです。

しかし、日本代表チームは世界屈指の強豪を破って決勝トーナメントに進みながらも、前回大会の準優勝クロアチアに1対1の同点に迫いつかれた末、PK戦で惜敗。悲願のベスト8にあと一步届きませんでした。試合後のインタビューで、森保監督が選手とスタッフを集めて円陣を組み、次のように語ったのが印象に残っています。

日本文化通じ交流深める
韓国の中学生、豊中中訪問

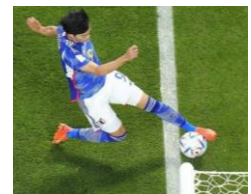
三豊市と香都市連携を一行は六の中学校から集結して、韓国の陝川郡、またら年生は1と引率者から中学生訪問団が同市を5日に来校した。訪れ、豊中中学校（同市豊中町、佐川三校長）の生徒と日本文化の体験をし、陝川の生徒たちに参加ペントなどを通じて交流を深めた。豊中中は陝川の中学校と2021年にオンラインで交流した。たほか、お菓子づくり体験も行った。今年度の交流は、今年度の交流を深めた。

3年近藤健樹さん15は、スマートフォンで動画を撮影。話、「言葉は違ってもアニメの語で盛り上がり、世界共通のものがあるんだと実感した。また、ウラタくんは、皆さんと仲良く活動できて楽しかった。また来たい」とお礼を述べた。

双方の生徒たちは引続き、一緒に近隣の大型書店で買い物を楽しんだ。陝川の一行は、4日は市役所に出下り、市長と市長夫人を訪問した。豊中からは、昨年8月下旬に生徒1人が陝川を訪問したが、今年は派遣を見送った。

8月28日の四国新聞より▲

三笥選手のプレー“三笥の1ミリ”▼
(2022FIFA ワールド杯スペイン戦にて)



ベスト16の壁は破れず、新しい景色を見ることはできなかったと言われるかもしれないが、ドイツやスペインというワールドカップで優勝した経験があるチームにも勝てるという“新しい景色”を見せてくれた。（森保 一）

この夏の豊中生のかつてない活躍もまた、私たち豊中の関係者に“新しい景色”を見せてくれ、元気を届けてくれました。「井の中の蛙（大海を知らず）（※）」にならないように、自分の可能性を広げてくれるまだ見ぬ世界（未来）に向かって、挑戦を続ける2学期にしたいものです。

（※）井の中の蛙……（井戸の中にいるカエルは大きな海を知らないことから）広い世界があることを知らずに、自分のまわりのせまい範囲だけでものを考えていることのたとえ。